

河川に係る長期的なモニタリング計画の検討について（案）

○河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング

1 モニタリングの目的

「知床世界自然遺産地域の世界自然遺産としての価値を維持していくためには、科学的知見に基づき順応的に管理していく必要がある。具体的には、世界自然遺産地域及び周辺地域におけるモニタリングを実施し、その結果を評価することで各種管理計画の見直しや各種事業の改善を行う。」

（平成 22 年度第 2 回科学委員会資料より）

→ 海域と陸域の繋がりが維持（改善）されているか

2 評価指標

- ・遡上数（海域から陸域に供給される物質量）、産卵床数
- ・河川工作物の遡上及び産卵への影響（河川工作物のある河川に限る）

3 評価基準

- ・各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること
- ・河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること（河川工作物のある河川に限る）

4 実施主体と調査頻度

- （1）森林管理局と北海道が河川を分担して実施
- （2）調査予算の大きな年変動の回避
 - ・対象河川の調査を隔年で実施（他のモニタリング項目との組み合わせで平準化を図る）

5 実施対象河川

- （1）選定にあたって考慮すべき点
 - ①自然環境
 - ・サケマスの遡上状況、河川環境
 - ②人間による攪乱の程度
 - ・河川工作物の状況（あるなし、改良の有無）
 - ・河川域での捕獲や放流事業の有無

③調査の容易さ

- ・調査の際のアクセス
- ・ヒグマの出没

④過去の遡上データ蓄積、特に継続的調査の有無

⑤対象河川の配置

- ・遺産地域の核心部（A 地区）と周辺部（B 地区）
- ・斜里側と羅臼側の配分

（別紙「サケ類遡上調査対象候補河川の比較」参照）

（2）調査対象河川（案）

斜里地区・・・ルシャ川、ホロベツ川

羅臼地区・・・ルサ川

6 調査方法（案）

ルシャ川・・・台形近似法調査（河口付近での遡上・降下数カウント）

ルサ川、ホロベツ川・・・台形近似法調査又は産卵床調査